

国語科学習指導案

1. 対象学級：2年 組
2. 実施日時：令和4年5月23日 月曜日
3. 実施場所：■■■■■
4. 単元名：故事・逸話「漱石枕流・画竜点睛」『古典B』（教育出版）
5. 単元について

(1) 単元の目標

自力で書き下し文を作成し、句法を理解したうえで大意の把握をする。現代でも使われる故事成語の由来を理解する。

(2) 単元観

本単元は短い故事・逸話であり、内容もわかりやすく面白みのある表題である。句法も漢文特有ではあるが、意味は古文で既出のものばかりなので自力で訳を作成し、大意の把握ができる難易度のものである。現代でも聞くことのある故事成語の由来について理解し、漢文に触れる楽しみを創る最初の二作である。

(3) 生徒観

全体的に活発で元気な生徒が多く、授業中も真面目に、前向きに取り組む姿勢がみられる。特に、グループ間での対話的な活動を通して、積極的な意見交流が行われている。2学年に上がり、初めての漢文のためか、少し基礎的な部分で復習が必要な生徒も見られる。

(4) 指導観

上記生徒観にもあるように、2学年最初の漢文の授業なので書き下し文の基礎的な決まりなど知識が乏しい部分がある。そのため、まずは書き下し文において注意すべき点を復習したのち、生徒の活動とする。

(5) 単元の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
ア:古典に用いられる語句の意味や漢文の用法を理解できている。	ア:内容を本文に即して正確に書き下し文を作成し、読み取ることができる。	ア:自分で本文に対する意見や見解を考え、述べることができる。
イ:漢文特融の用法の意味を正確に理解し現代語訳ができる。	イ:本文からこの話の面白みを読み取ることができ、表現することができる。	イ:故事成語の由来にもなる本文について、自ら理解を深めようとしている。

- (1) ア 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
オ 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること
- (2) ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。

国語科学習指導案

(6) 単元計画

時限	各時間の目標	主な学習活動
1	◆再読文字について復習し、自力で書き下し文を正確に作成する。	○漢字・意味 小テスト ○再読文字の確認 ○グループでの書き下し文作成
★2	◆再読文字・助動詞、助詞に惑わされることなく、正確に書き下し文を作成することができる。	○助動詞、助詞の確認 ○生徒たちの板書にて書き下し文の確認
3	◆句法(主に願望・反語・使役など)を理解し、訳を自力で作成する。大意の把握をする。	○書き下し文 小テスト ○句法の確認 ○グループで訳作成
4	◆訳を自力で作成し、大意の把握をする。 ◆故事成語の由来を理解する。	○まとめ 小テスト ○グループで訳作成 ○まとめ

国語科学習指導案

(7) 本時の指導計画

△教師の行動 ▲教師の活動 ○生徒の行動 ●生徒の活動
・本時の展開

本時の目標		再読文字など文法を理解し、正確に書き下し文を作成する。	
学習活動		指導上の留意点	評価基準
導入 10分	△前回の振り返り ▲〈助動詞・助詞について〉	・例を用いて助動詞、助詞の書き下し文の注意点補助をする。	○正しく助詞・助動詞の理解をし、書き下すことができているか。(知・技)
展開 35分	○グループ活動 ●グループで書き下し文を作成する(5分程度の予定)(進捗状況により時間変更) ●書き下し文を板書する。 ○発表者を決める。 ○グループ解消 ▲答え合わせ	・書き下し文確認時間を取る。 ・書き下し文がどこまで終わっているのか、前回までの生徒の動き、ノートを見て確認する。 ・グループ代表ひとりに出てきてもらい、黒板に書き下し文を書いてもらう。クラス全体で確認する。 →口頭発表 ・答え合わせ中、大事なところ(再読文字・助動詞、助詞など)、つまづきやすいところは目視できるようにしておく	○意欲的に活動に参加し、与えられた役割を実行する。(学びに向かう力・人間性等) ○正確に書き下し文を作成し、読み取ることができる。(思・判・表)
まとめ 5分	△書き下し文模範解答プリント配布 △次回予告	・次回は訳に入れるように書き下し文はプリントで確認してもらう。 ・次回小テストは書き下し文作成、書き下し文→白文に返り点、送り仮名をつける(ノート参照可)	○ノートに書き下し文を書き取り、または添削している。

P220 221 漱石枕流、画竜点睛

⑩16 助動詞 助詞について

↓書き下し文で
平仮名に直す。

(例) 流レ枕ル、
↓流れは枕すべく、

*アンケート内容次第で
例文変更有

↓ 展明

P220 221 漱石枕流、画竜点睛

① 孫子荊年少き時、隠せんと欲す。

* 班級によって変更有

⑤ ④ ③ ②

生徒が書き下し文を
板書する。

* ① 張僧繇は吳中の人なり。

⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ②

生徒が書き下し文を
板書する。

金剛回の板書

P220 221 漱石枕流、画竜点睛

⑩20 毎讀文字について

↓漢文を日本語として
訓讀するとき、二度讀む
文字。

(例) 未レ聞カ。↓未レ聞カ。

主な再讀文字
未 將 且 当 心 宜
須 猶 益

注意点

書き下し文
① 一度目は返り点を無視して、
書き下し文では漢字にする。
② 二度目は返り点に従い、書き
下し文では平仮名にする。

③ 二度目の讀みの送り仮名は
再讀文字の左下につける。

(例) ⑩ ⑩ 枕シ石ニ漱カ流ト

↓当に右に枕し、流れに

漱ぐとすべき